

H31 年度 学校評価アンケート 保護者用

A (5)	B (4)	C (3)	D (2)	E (1)
十分達成されている	ほぼ達成されている	あまり達成されていない	ほとんど達成されていない	判断できない
よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	ほとんどあてはまらない	分らない
とても思う	思う	あまり思わない	ほとんど思わない	

	保護者
幼稚園全体に活気がある	4.5
教育活動に満足している	4.5
共通の体験を通して協調性を養っている	4.7
保育活動に無理がなくバランスが取れている	4.2
子ども達が楽しく活動に参加している	4.7
年間指導計画に工夫が見られる	4.5
チーム保育がしっかり行われている	4.4
子ども達が活動する場面がたくさんあり内容が充実している	4.5
子ども達は行事を楽しみにしている	4.8
教育方針や目標が明確である	4.5
子ども達に適した環境が整備されている	4.6
個人情報などの取り扱い	4.2
方針が明確であり管理されている	4.2
園長はリーダーシップを発揮している	4.6
園長はじめ教職員は協力して教育活動に取り組んでいる	4.5
教職員は子ども達を大切にしている	4.9
教職員は教育活動に熱心に取り組んでいる	4.8
教職員は保護者からの相談や連絡事項に丁寧に応じている	4.7
教職員は社会人としてマナーを身につけている	4.5
幼稚園からのプリントに保護者の知りたい情報が盛り込まれている	4.5
保育参観・行事・PTA 活動を通して幼稚園の様子がよくわかる	4.6
施設の安全は確保されている	4.1
安全指導や避難訓練などを通して子ども達の安全に取り組んでいる	4.7
遊具などの安全点検を実施し安全対策をしっかりしている	4.4

H31 年度 自己評価 先生用

A	B	C
十分に達成されている	ほとんど達成されているが、部分的に課題が積み残されている	課題が多く積み残され、ほとんど成果が上がっていない

教職員が、園の教育理念や教育方針を十分に理解している。	A
指導計画は、幼児の生活が豊かになることを目標とし、幼児の実態に合わせ、かつ状況の変化に対応できる順応性のあるものになっている。また、行事も幼児の実態に合わせて精選している。	A
指導計画に基づいて幼児が主体的に関わり、安定して遊びこめる環境構成を活動の展開に応じて再構成している。	B+
自分の保育と計画の評価・反省を次の保育と計画に生かせるようにし、更に教師間で検討したことを幼児の生活と自らの保育につなげている。	B+
幼児の言葉にならないサインを受け止め、幼児同士のかかわりの中にある心の動きに寄り添い、内面の理解に努めている。	A
ひとりひとりのありのままの姿を受け入れ、幼児の気持ちに共感しながら“個と集団”の関係を常に考慮し、発達段階や個の特性に応じた見通しのある関りをしている。	B
他のクラスや異年齢の幼児とかかわれるよう様々な保育の形態を取り入れ、指導上配慮を必要とする園児については特に情報の交換を密接にし、共通理解をもって対応している。	B+
保護者に対し、幼児の事や自分の保育の事を分かりやすく話すことが出来たり、職務上知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守るなど、保護者との信頼関係をつくることに努めている。	B+
幼児と一緒に生活を創り出すことを楽しむ中で、幼児のささやかな成長が理解できて、それを喜ぶことができる。	A
幼児や教育に関する情報を絶えず捉えようとする姿勢を持っている。また、社会の出来事にも関心を払い、それを保育の中に活かしたり、自然に対しても感性を抱き、命の尊さを感じている。	A
クラスの子どもの様子、自らの保育感、保育のポイントなどをクラスだより等で知らせ、電話や連絡帳などを活用して伝え合っている。	B+
保育参観や懇談会を開いて、子どもについて、保育について、家庭のあり方について等、自分の観点を明確に伝え、保護者の話にも心を開き、共通理解を得るよう努めている。	B+
幼稚園が幼児の育ちの連続性を踏まえ、地域の子育てセンターとしての役割を果たすとともに、卒園した子ども達の心の基地としてふさわしく位置づくよう努めている。	B
地域の自然との関わりを通して幼児の生活が豊かになるよう様々な工夫をしている。	B
子ども達一人一人の内面を、その生み出された背景等に視点を置くことによって理解し、常に共感的関りに基づいて保育を進めているか、教職員間で省察しあっている。	B
青少年が引き起こす問題行動と幼児教育との因果関係を検証し、その視点で幼児教育のあり方を見つめ直す姿勢を持っている。	A
子ども達一人一人の育ちの連続性に配慮し、家庭教育や小学校教育との望ましい連続の在り方を研究している。	B+